

播種時期別試験成績表

時期別	測定年月日	発芽率(発苗率)	苗高	備 考
秋 播	昭和24年11月30	60.4%	48 寸	昭和24年12月23日播種
	" 25.9.21	(44.2)	24.3	播種量9升(伊北郡百済末村産種子)
春 播	" 25.6.30	12.2	3.7	昭和25年4月17日播種
	" 25.9.21	21.7	21.7	播種量9升( 全 上 ) 苗高は各、100本平均値とす。

この結果から見て秋播は成績不良である。なお秋播の発芽率(発苗率)の低い原因は多分冬季中種子が寒害にかゝるためと懸われる。

(5) 結 び

以上の各種試験結果から考察すれば

A 單位面積当り播種量は可なり多くしても、生産された苗木の実質には大して影響はなく、生産コストから見て有利であるから1坪当りの播種量は60粒程度迄は厚播しても差支へないようである。

B 発芽を促進するためには清水に7晝夜程度浸漬すべきである。なおホルモン剤使用は0.004%濃度では効果がうすいと懸われるので処方箋の濃度の倍以上にして処理したら或る程度の効果があるものと懸われる。

C 播種の時期は春季3月乃至4月に行つがよく、而も種子の貯蔵は別に特別の困難な問題は無い。

なお以上の他肥料試験も行つたが、堆肥坪800 匁施用区が成績最も優秀であつた。

(註) 堆肥坪800 匁区、堆肥坪400 匁区、硫酸坪30 匁区、木灰坪10 匁区、及び無肥料区の五区。

白田地方に於ける杉挿木苗養成について(第一報)

大分縣林業試験場 高 倉 優

白田地方に於ける杉苗は蘆荻林地に挿付ける方法と床挿法の二法があります。明治以前は直挿法ばかりでありまして今も当地方一部で実行されていますが、近來殆んど床挿法が行われて居ます。即ち明治の初期になりまして床挿法を用ひ始めましたが、これも自家養成を主として居り、大正年間になつて生産販売を目的とする大量の養成が行われる様になり、研究を重ね現在白田郡市年間800万本以上生産する様になりました。私はこゝに5ヶ年向毎年5、60万本程度の挿木養成を実行して来た苗圃の実行者でありまして、毎年事業の

実行に迫られて試験研究的なことは殆んど実施出来ていないのであります。この種はかりの経験や見聞を通して旧田杉の樟木苗養成をお話してみようと思っております。勿論これから挙げ 寸指図は一項目毎が大分試験の対象となり得るものであります。その長は御許し願って置きます。

#### 一 地 形

前面を度所至 $\delta$ 度傾斜地開田に成木林ありて開通しを良く山岡部にして伐採跡地を良とす

#### 一 土 質

表土腐植質、心土粘質、壤土地方名七瀬噴石(火山系灰土、灰土、赤土ヤ土 最も適す)

#### 一 穂 木

地方別の挿付に依り異なるが母樹は若木が特に可とするも発根少く5、6年生取も良く、8年以上は採集困難を来す。5、6年生なれば本定、7年生は10本採取しても母樹 衰傷なし。

#### 一 採 取

時期は2月乃至4月なれば吉野櫻満開前後の樹長さ1尺3寸。母樹の中間が最も標準なり。切口は小鋸の鋭利なものにして上方より一打にて切断し、下枝を三寸、手にてもぎ取る。切口は45度にて切り、切返しは不要なり。一束25本が理想である。

#### 一 挿 付

挿付は特に此種が大切であるから遅くとも1ヶ月前耕耘整地して置く。水付けは一昼夜が活着率良好なるも穂木大量なる場合は水は清流にして寒涼なる場所に下枝をもぎたる箇所を水浸すれば20日間を經ても挿付に支障なし。穂木は切口より一寸上方に向け、穂木の根を前面に——1寸位挿込。次に下枝二本に挿する所に3寸5分挿付す。苗間は3寸間隔は6寸とし、1坪200本反当り6万本が取れば必しも生産業者は反当り10万本挿付る。採取を考えた場合ク尺床にて行えば採取が能率的なり。

#### 一 除 草 9月下旬に1回行う。

#### 一 生長状態

挿付後20日にして活着率明瞭なり。5月中旬よりカルス附着開始し8月上旬より細白根を出し、10月上旬完全なる発根山行前となる。此の間8ヶ月を要す。